

第98回宝生流能楽鑑賞会

# 日本伝統芸能

# 能楽鑑賞会

能

藤

乱

狂言

清

水

広島克栄

佐野由於

能村晶人

令和6年4月28日(日) 午後1時開演(12時開場)

ハピリンホール能舞台 福井市にぎわい交流施設

(JR福井駅西口「ハピリン」3階 福井市中央1丁目2-1 TEL 0776-20-2901)

前受入場券 4,000円・当日入場券 5,000円(前受入場券をご希望の方は、事前の申込みが必要です。)

申込みは事務局 (TEL 0776-24-7851) に問合せいただくかホームページをご覧ください。

新型コロナウイルス感染防止の為、お越しの際はマスクを着用して下さい。当日は体温チェック、手指の消毒をお願いし熱のある方は来場を控えて下さい。

主催 宝生流福井能楽会

協賛 (一財)三谷市民文化振興財団

後援 福井市 福井新聞社

能組

演目解説

能

シテ 広島 克栄

藤

ワキ 平木 豊男  
ワキツレ 渡貫 多聞

大鼓 亀井 洋佑 太鼓 大橋 紀美  
小鼓 住駒 俊介 笛 江野 泉

間炭 哲男

後見 渡邊 茂人  
福岡 聡子

地謡 渡辺晃三郎 藪 克徳  
佐藤 裕則 大坪喜美雄  
和田 義一 島村 明宏  
芦田 嘉和 佐野 弘宜

狂言

清水

シテ 能村 晶人

アド炭 光太郎

後見 中尾 史生

休憩十分

能

シテ 佐野 由於

ワキ 北島 公之

大鼓 飯嶋六之佐 太鼓 麦谷 暁夫  
小鼓 住駒 幸英 笛 江野 泉

乱

後見 藪 克徳  
福岡 聡子

山岸 誉 佐野 弘宜  
天野 和彦 島村 明宏  
地謡 谷 清士 渡邊 茂人  
鈴木 重寛 川島 英治

能 藤 (ふじ)

都の方から来た僧が、北国の名所を巡ったあと善光寺詣をしようと信濃の国へ向かう途中、藤の名所の多枯の浦に着きます。僧が、松と交って見事に咲いている藤の花を見ながら古歌を思い出し一人吟じていると、どこからともなく美しい女が現れ、その歌はこの藤にはふさわしくないとい僧をとがめます。そして、「多枯浦や汀の藤の咲きしよりうつろう浪ぞ色に出にける」の古歌こそここで詠むべきだと語ったあと、自分が藤の花の精であることを明かして姿を消します。

多枯の浦の藤にまつわる話を所の者から聞いた僧がその夜藤の花の下で仮寝をしていると、藤の花の精が現れます。そして仏の功德により花の菩薩になったことを告げ、この様に僧に言葉交わせるのも自在変身の縁だと喜んで美しい舞を舞って見せませんが、春の短夜の明ける頃、朝霞と共に消え失せます。

能 乱 (みだれ)

「狸々」の曲中で「乱」という舞が舞われる場合、「乱」または「狸々乱」の曲名で呼ばれます。

狸々(しゅうじょう)：中国のかね金山の麓に高風という親孝行がいました。ある夜受けた夢のお告げのままに、揚子の市で酒を売ると、次第に高貴の身となりました。さて、市ごとに高風の店にやってくるは何杯も酒を飲むが、一向に顔色の変わらない、という不思議な客がいます。名前を尋ねると海中に棲む狸々だと答えたので、今日、高風は潯陽の江(揚子江)のほとりに酒壺を置き、狸々が出て来るのを待っています。

やがて波間より狸々が現れます。月も星も光り輝き、芦の葉音や打ち寄せる波音、吹き渡る浦風の奏でる天然の秋の調べに機嫌良く狸々は舞い出します。そして高風のこの世に珍しく素直な心を賞し、また今迄の酒の返礼に、と酌めども尽きぬ不思議な酒壺を高風に与えます。更に盃を交わす内に、さすがの狸々も酔い臥してしまい、そこで高風の夢は覚めますが、狸々の酒壺は手許に残り、家も長く栄えました。

能 清水 (しみず)

茶の湯の会の準備のため、主人は太郎冠者を野中の清水へ水汲みにやる。太郎冠者は、今後、来客のたびに水汲みをさせられるのをあらかじめ避けるため、清水に鬼が出たとうそをついて水も汲まずに戻ってくる。不審に思った主人が清水まで見に行くので、太郎冠者は先回りして鬼の面をつけて待ち伏せる。一度主人も恐れおののくが、鬼がなにかと太郎冠者をひいきにするのと、その声で太郎冠者に似ていたのに気づき、再度清水へ出かけ、またも鬼に扮して現れた太郎冠者の面をはがして追い込む。

※場内での撮影・録音・録画は固くお断り致します。

申込、公演案内

宝生流福井能楽会 事務局 天野和彦  
福井市三郎丸2-908 TEL/FAX 0776-24-7851

【宝生流福井能楽会のホームページ】  
<http://www.mitene.or.jp/~y-sato>

福井能楽会  検索



会場案内図

